

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（概要）

島本町教育委員会

調査対象・時期

調査対象 中学校2年生
 調査時期 令和3年4月～7月の間に各学校において実施 ※令和2年度は調査を中止

実技集計結果（中学校・男子）

中学校 2年男子	握力(kg)		上体起こし(回)	
	平均値	T得点 【全国を50とした値】	平均値	T得点
R3全国	28.8	50.0	26.0	50.0
R3島本町	30.9	52.9	26.9	51.4
R1島本町	28.7	50.1	27.5	50.9

中学校 2年男子	長座体前屈(cm)		反復横とび(点)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	43.7	50.0	51.2	50.0
R3島本町	40.6	47.2	51.9	50.9
R1島本町	41.5	48.1	52.7	50.9

中学校 2年男子	持久走(秒)		20mシャトルラン(回)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	406.4	50.0	79.9	50.0
R3島本町			78.9	49.6
R1島本町			78.3	47.9

※中学校調査では、「持久走」と「20mシャトルラン」のどちらかを選択するものであり、R1年度、R3年度に実施した生徒はいませんでした。

中学校 2年男子	50m走(秒)		立ち幅とび(cm)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	8.0	50.0	196.4	50.0
R3島本町	7.6	55.1	203.4	52.4
R1島本町	7.5	55.4	196.7	50.6

中学校 2年男子	ハンドボール投げ(m)		体力合計点(点)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	20.3	50.0	41.2	50.0
R3島本町	20.6	50.5	43.3	52.0
R1島本町	20.4	49.9	44.0	52.3

実技集計結果（中学校・女子）

中学校 2年女子	握力(kg)		上体起こし(回)	
	平均値	T得点 【全国を50とした値】	平均値	T得点
R3全国	23.4	50.0	22.3	50.0
R3島本町	25.2	53.8	22.7	50.6
R1島本町	24.6	51.8	24.4	51.2

中学校 2年女子	長座体前屈(cm)		反復横とび(点)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	46.2	50.0	46.3	50.0
R3島本町	39.9	43.8	47.1	51.2
R1島本町	46.8	50.5	50.5	54.7

中学校 2年女子	持久走(秒)		20mシャトルラン(回)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	297.6	50.0	54.2	50.0
R3島本町			53.0	49.4
R1島本町			59.4	50.5

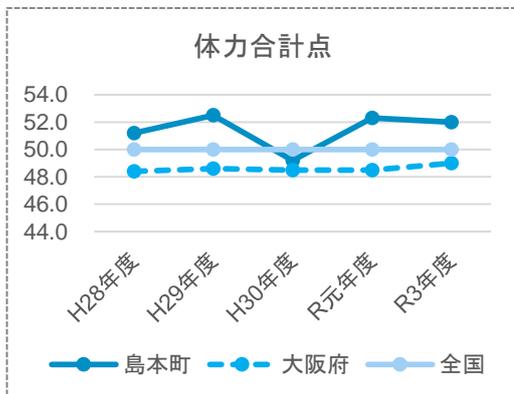
※中学校調査では、「持久走」と「20mシャトルラン」のどちらかを選択するものであり、R1年度、R3年度に実施した生徒はいませんでした。

中学校 2年女子	50m走(秒)		立ち幅とび(cm)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	8.9	50.0	168.2	50.0
R3島本町	8.6	53.0	164.6	48.6
R1島本町	8.4	55.1	176.9	52.9

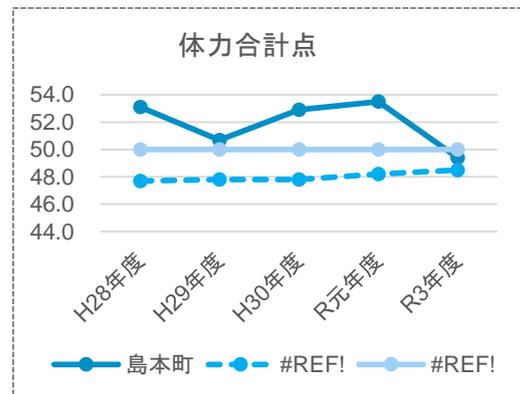
中学校 2年女子	ハンドボール投げ(m)		体力合計点(点)	
	平均値	T得点	平均値	T得点
R3全国	12.7	50.0	48.6	50.0
R3島本町	11.4	46.8	47.9	49.4
R1島本町	12.6	49.1	54.1	53.5

結果の概要（中学校） 体力合計点の経年比較（T得点【全国50とした比較値】）

【中学校男子】

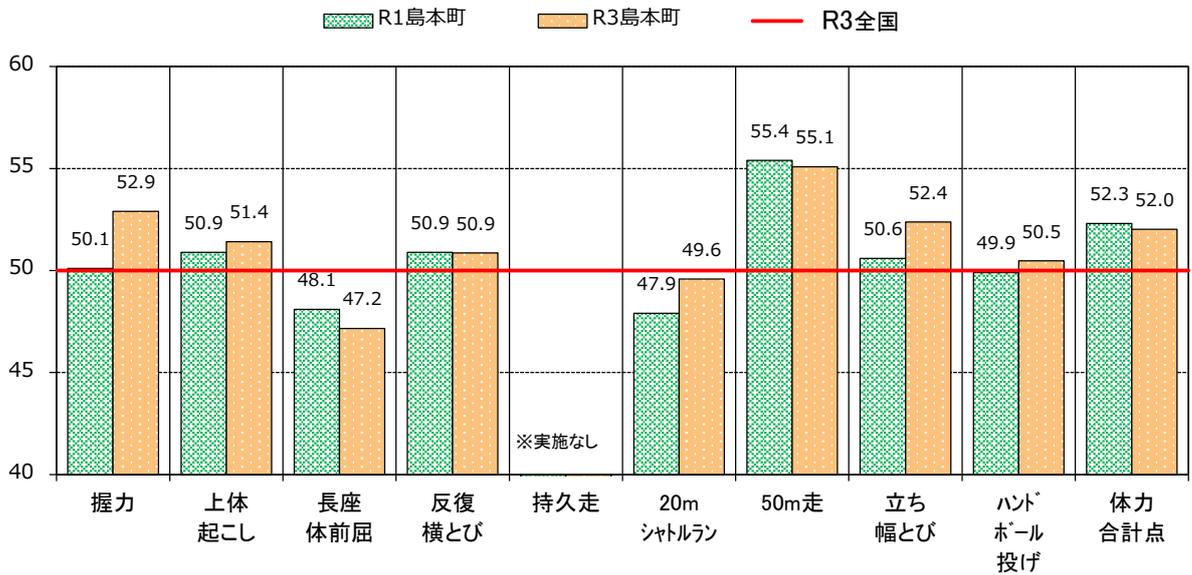


【中学校女子】



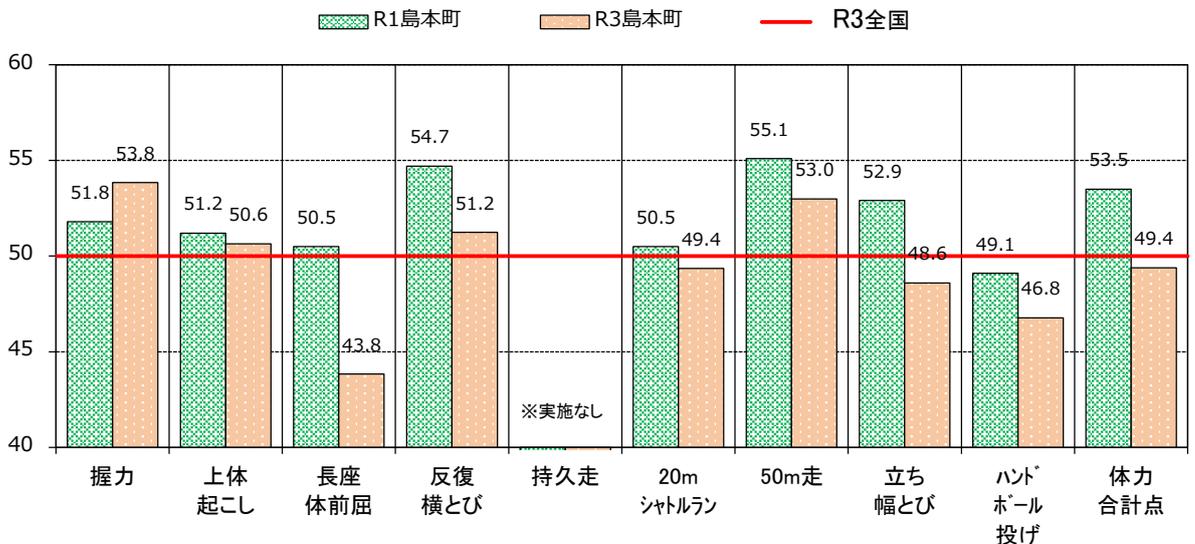
年度	中学校男子			中学校女子		
	島本町	大阪府	全国	島本町	大阪府	全国
H28年度	51.2	48.5	50.0	53.1	48.7	50.0
H29年度	52.5	48.3	50.0	50.7	48.6	50.0
H30年度	49.2	48.5	50.0	52.9	48.6	50.0
R元年度	52.3	48.8	50.0	53.5	48.6	50.0
R3年度	52.0	48.5	50.0	49.4	48.3	50.0

中学校男子 T得点【R3年度全国を50とした比較値】



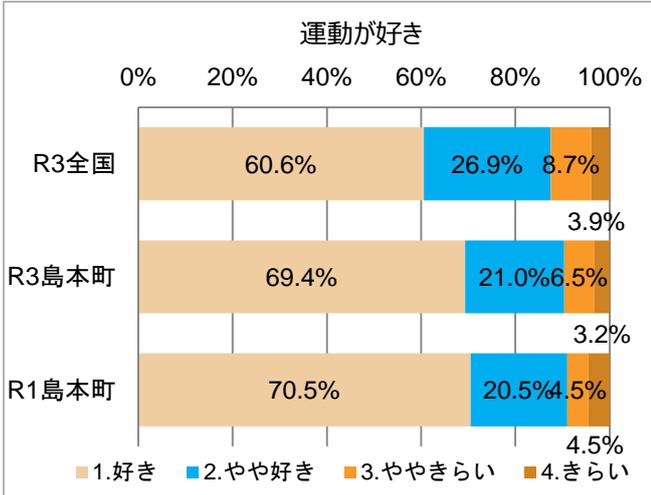
- 体力合計点におけるT得点は、島本町は【52.0】で、全国よりも高い。令和元年度【52.3】とほぼ同値。
- 種目別では、「長座体前屈」「20mシャトルラン」以外の6種目が、全国より高い結果となった。また、令和元年度と比べると、「長座体前屈」「50m走」以外の6種目で、T得点が伸びている。⇒【成果①】
- 令和元年度に課題としていた「ハンドボール投げ」においても、全国平均（50）を上回る結果となった。
- 「長座体前屈」「50m走」のT得点が令和元年度よりも低い結果となった。⇒【課題②】

中学校女子 T得点【R3年度全国を50とした比較値】



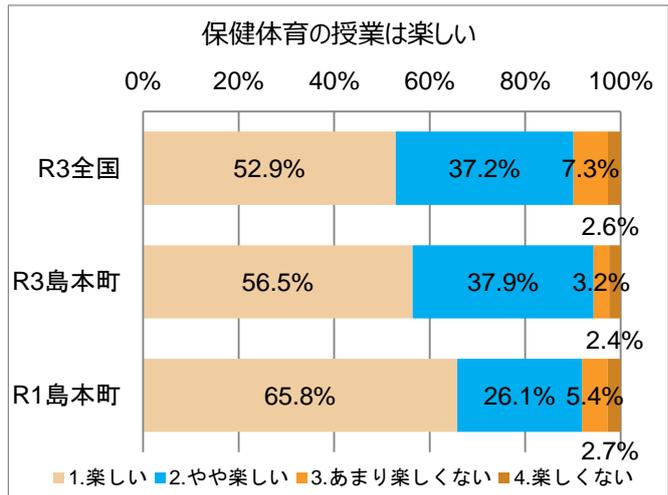
- 体力合計点におけるT得点は、島本町は【49.4】で、全国よりもやや低い。令和元年度【53.5】から低下している。⇒【課題①】
- 種目別では、「握力」「上体起こし」「反復横とび」「50m走」で、全国より高い結果となった。また、令和元年度と比べると、「握力」で、T得点が伸びている。⇒【成果①】
- 令和元年度に課題としていた「ハンドボール投げ」においては、全国平均（50）よりも低い結果である。
- 「長座体前屈」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」「ハンドボール投げ」のT得点が令和元年度よりも低い結果となった。⇒【課題②】

運動習慣等調査（中学校・男子）



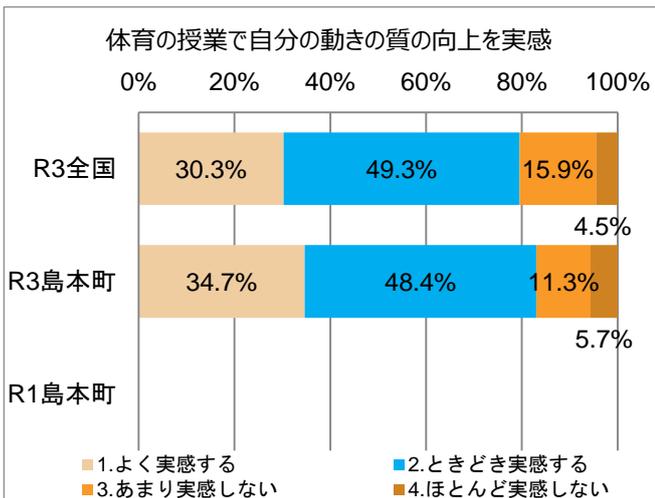
「運動が好き」に関しては、「好き」「やや好き」を合わせた回答が全体の90%以上であり、全国と比較すると「好き」が高い結果となっている。
また、令和元年度と比較しても、結果に大きな変化は見られない。

⇒【成果①】



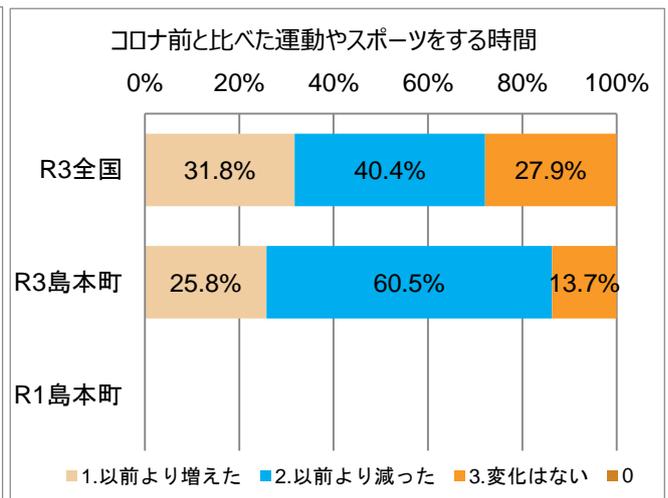
「体育の授業は楽しい」に関しては、「楽しい」「やや楽しい」の回答が全体の95%程度であり、全国と比較してもやや高い結果となっている。
また、令和元年度と比較すると、「楽しい」が減り、「やや楽しい」が増えている。

⇒【成果①】



「体育の授業で自分の動きの質の向上を実感する」に関しては、「よく実感する」「ときどき実感する」を合わせた回答が全体の約83%で、全国よりも高い結果となった。
令和元年度は、この質問項目は実施されていない。

⇒【成果②】

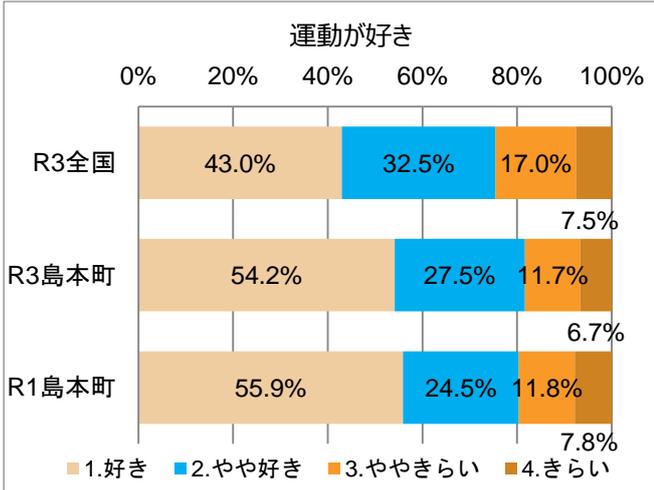


「コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間」に関しては、「以前より増えた」の回答が、全体の約25%で全国よりも低く、「以前よりも減った」の回答が、全体の60%以上という結果となった。全国よりも「減った」という回答が約20%も高くなっている。

令和元年度は、この質問項目は実施されていない。

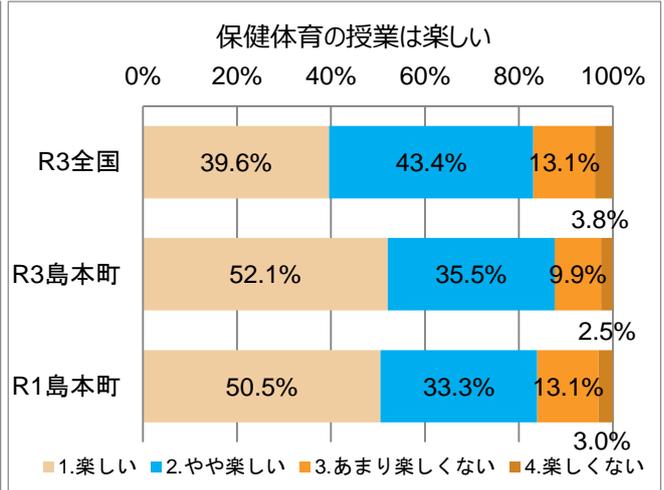
⇒【課題③】

運動習慣等調査（中学校・女子）



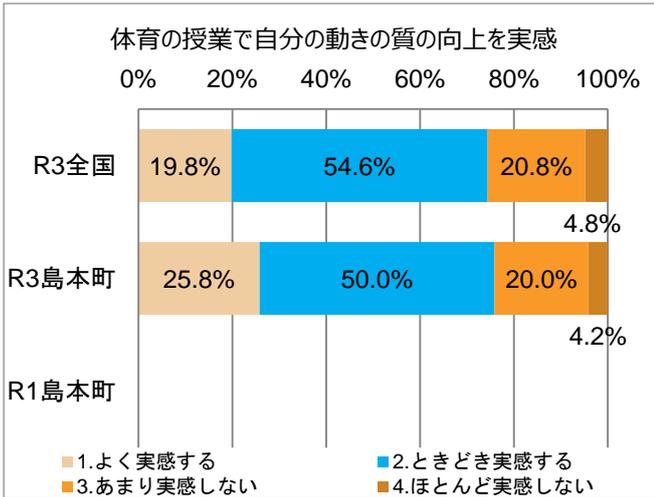
「運動が好き」に関しては、「好き」「やや好き」を合わせた回答が全体の80%以上であり、全国と比較すると「好き」が高い結果となっている。
また、令和元年度と比較しても、結果に大きな変化は見られない。

⇒【成果①】



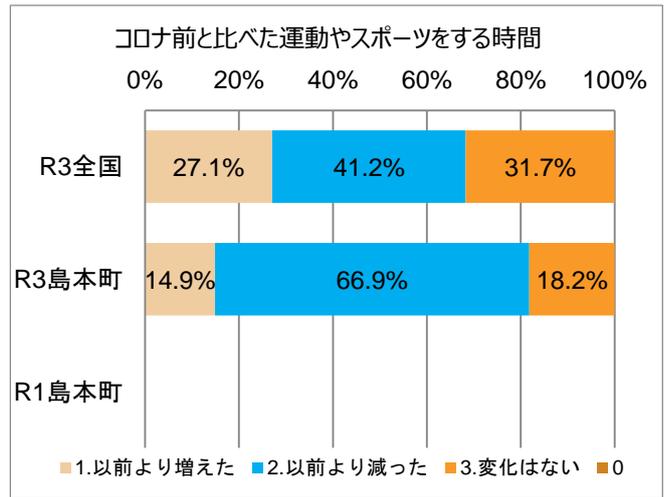
「体育の授業は楽しい」に関しては、「楽しい」「やや楽しい」の回答が全体の85%以上であり、全国と比較してもやや高い結果となっている。
また、令和元年度と比較すると、「楽しい」「やや楽しい」が増えている。

⇒【成果①】



「体育の授業で自分の動きの質の向上を実感する」に関しては、「よく実感する」「ときどき実感する」を合わせた回答が全体の約75%で、全国よりも高い結果となった。
令和元年度は、この質問項目は実施されていない。

⇒【成果②】



「コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間」に関しては、「以前より増えた」の回答が全体の約15%で、全国よりも低く、「以前よりも減った」の回答が全体の65%以上という結果となった。全国よりも「減った」という回答が約25%も高くなっている。

令和元年度は、この質問項目は実施されていない。

⇒【課題③】

調査結果の分析と今後の方策【中学校】

分析

【成果①】

- ・「運動が好き」「体育授業が楽しい」の肯定的回答において、高い割合を維持している。コロナ禍においても、感染予防対策を講じながら、体力向上に向けた授業を展開してきた成果であると考えられる。

【成果②】

- ・「体育の授業で自分の動きの質の向上を実感する」において「よく実感する」の回答が全国よりも高い割合であった。これは、体育の授業における運動量の確保と、指導者からの基本的な動作に関する指導が充実している成果であると考えられる。

【課題①】

- ・令和元年度と比べて、男女ともに体力合計点が低下しており、とくに女子は全国平均を割る結果となった。コロナ禍におけるさまざまな活動の制限により、運動する機会が減少していることが原因の一つであると考えられる。

【課題②】

- ・令和元年度と比べて、「長座体前屈」が男女ともに低い結果であり、身体の柔軟性を高めることが課題であると考えられる。また「ハンドボール投げ」が、女子で低い結果あり、基本的な『投げる』動作が身につくような活動の充実が課題である。

【課題③】

- ・「コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間」において、男女ともに60%以上の生徒が「減った」と回答しており、全国と比較して20%以上も高い割合であった。体育の授業以外で運動する機会が減少していることが原因であると考えられる。

今後の方策

① コロナ禍でも「運動量の確保」と「基本的な動きを身につける指導」を継続する。

⇒感染予防対策を講じた上で、体を動かす場面を多く取り入れた授業づくり、個々の児童が「できる喜び」を感じられるように、発達段階を考慮し、場の工夫やスモールステップの授業づくりを行う。

② 体育の授業以外でも運動する機会をつくる。

⇒生徒委員会を主体とした取組を推進する。例えば、「全校レクリエーション」「体育的行事」等を通して、生徒一人一人の運動意欲を高め、体力の向上を図るとともに、身体の柔軟性や「投げる」等の基本的な動作の習得につなげていく。

③ 「運動の大切さ」を学ぶ機会の充実を図る。

⇒教育活動全体を通じて、健全な心身の成長のためには運動が大切であるということへの理解を促し、生徒一人一人の体力向上につなげる。